

発言4-3

子どもたちの”夢を支える”食の共有

塚原丘美

名古屋学芸大学 管理栄養学部准教授



要旨

名古屋学芸大学管理栄養学部10周年記念事業では、大学キャンパスがある日進市の食育推進活動に協力することを目的として、“つくってあげたいごはんコンテスト”を計画しました。日進市の小・中学生約8200人より664作品も応募をいただきました。次に、このコンテストの作品の夢をかなえるために、これらの作品を実際のレシピに作り上げる“管理栄養士が子どもの食事の夢かなえますコンテスト”を行いました。185作品もの夢をかなえるレシピの応募があり、表彰式には最初に応募していただいた小・中学生も来ていただき、盛大に終えることができました。

この「つくってあげたいごはん」の作品は、健康を気づかう気持ち、感謝の気持ち、お祝いの気持ちなど、食べてもらいたい人への様々な熱い思いが絵だけでも伝わってきます。そして、大学生と卒業生も子どもたちと同じ気持ちになって実現レシピを考えました。このレシピがあれば、子どもたちが描いた絵は料理となり、食べてもらいたい人へ思いを伝えることができます。世代をつなぎ、子どもの思いと管理栄養士の専門性をつなぐ「食事づくり」の共有を生むプログラムとなりました。

私たちは名古屋学芸大学管理栄養学部10周年記念事業で、この二つのコンテストを行いました。まず、この事業に当たりまして、何をしようかとみんなで考えました。その時に、やはり大学がある日進市に何か貢献をしたいということを考えました。日進市はみなさんご承知の通り、人口増加率がとても高いところで、子どもさんがとても多いです。ですからやはり、日進市の食育推進活動に協力したいということをまず念頭に置きました。

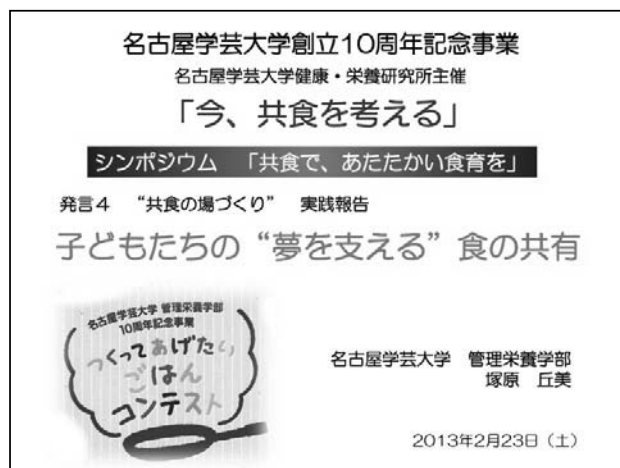


図1

まず第1回目の、このコンテスト1です。「作ってあげたいごはんコンテスト」というものを行いました。これは日進市の小・中学校に応募用紙を配り、そこに、誰かに何かを作ってもらいたい、こんな風に食べてもらいたいという様な、この食とか食べるもの、食べることに興味を抱いてもらおうと思って、このコンテストを行いました。そのコンテストで応募して頂いた作品に、今度はうちの大学の在学生のいわゆる管理栄養士を目指す者と、卒業生の管理栄養士になっている人たちが、この人たちにその専門性を生かして、そのせっかく子どもさんが考えてくれた料理をですね、実現できるレシピに仕上げましょうというコンテストを第2回目のコンテストとしました。ここでその世代を繋ぐ食の共有というものを目指しました。

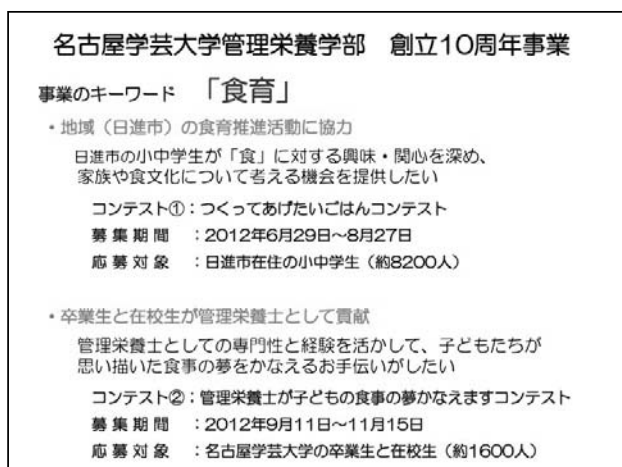


図2

こちらの方は、今子どもさんが作っています。これは実際に応募用紙に学生スタッフのアドバイスのもと絵を描いているわけですが、今色んなことを考えて描いてくれていると思います。誰かにこんなものを食べさせてあげたいと思いながら描

そのコンテストの途中には、このプレイベントとしまして、大学に遊びに来ていただきました。これは小・中学生の方に応募を募集したのですが、夏休みの間にこのように学校に来てもらって、身近に食のことに對して体験をして頂きました。



図3

いてくれているのですね。

その作品をなんと 664 作品も応募頂きました。これには日進市の校長先生はじめ、学校の先生方、或いは教育委員会の方皆さんの協力を得まして、こんなにたくさんの応募を頂きました。それを大学祭で全部、学校の中に張り出しました。これでみんないろんな方に見てもらいましたけれども、実際にこれはどれを見てもですね、すごく熱い思いが伝わってきます。なかなか絵も上手なのですけども、やっぱり小学校の小さな小学1年生2年生の方から中学校の3年生までいましたけれども、どの応募用紙でもですね、やっぱり色んな気持ちが伝わってきて、これを読んでいるとすごく楽しい気持ちになってきます。



図4



図5

その作品を、今度は管理栄養士の卒業生か在學生がですね、それをレシピに仕上げました。この作品は 185 作品集まりました。この中から金賞、銀賞など賞を決めまして、コンテスト表彰式を行いました。ここには最初に応募して頂いた子どもさんの親御さんたちみんなご家族で来ていただきましたので、このように皆さんで記念撮影もしましたし、今日ご講演頂いた足立己幸先生の食育の講演もしていただきました。

ここからは実際にその応募作品をざっと見ていただこうと思います。

これは「エイプリルフラワー生春巻き」というタイトルで、中学生の女の子が描いてくれました。これはおばあさんのお家にお花がいっぱいあって、おばあさんの誕生日にそのお花を見立てて生春巻きをカラフルなので作りたい、というのを実際にやってくれたのがこれです。これはお花が上からも透き通って見えるのですけれども、実は切っても中にもお花ができていますね。これは実現もし易いでしょうし、実際に中学生にも作れるものなので、実現できるなということで、一応これが金賞になりました。



図6

次です。これは私の一番お気に入りなのですが、これはすごいです。考えてくれたのが中学1年生の男の子なのです。すごいです。「世界の人々に」、なのです、対象が。世界の人々の、悲しい時やさみしい時に、この丼ぶりの蓋を開けたら、これが出てくるから、みんながにっこり笑うよという作品なのです。これを作ってくれたのがこれです。これも上手に考えてくれまして、世界の人々なので、人種をご飯の色を変えて、この世界でみんな食べてみようというのをやってくれました。



図7

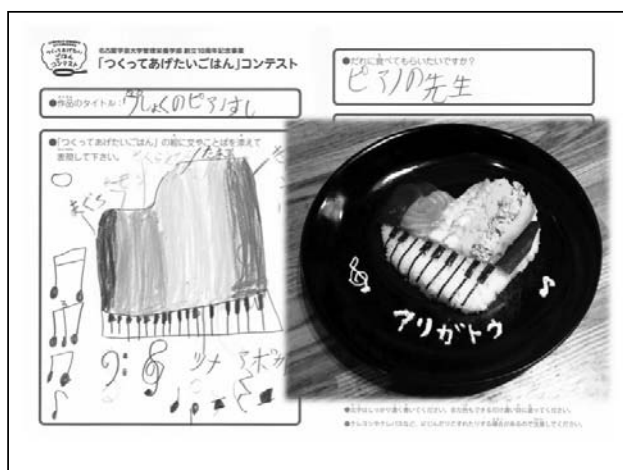


図8

これは小学1年生の男の子です。ピアノコンサートで先生が曲を作ってくれたらしいです。曲を作ってくれたので、ピアノコンサートの後にこれを食べさせたいと。ありがとうという気持ちという風に下に書いてあるのですけれど、こういう風な気持ちで描いてくれました。この作品がこれです。ここの場合は小学校1年生がこれをなかなか作れないかもしれないので、お母さんと一緒に作っていただいてですね、今日最初の講演もありましたけれども、作るときから一緒に作っていただけたら良いかなと思います。

これは親戚のももちゃんに作る、フルーツの名前を憶えていただきたいので、フルーツバスケット、果物バスケットを作るという気持ちが伝わってきます。ももちゃんなので、真ん中には桃がないといけならしいです。実はこれはかなりのテクニックを要する料理なので、賞には選ばれましたけれど、これはさすがに実現できないかなということで銅賞に甘んじてしまいました。でも、上手に作ってくれました。



図9



図 10

これは中学1年生の女の子の作品なのですが、これは小学生の弟さんが野菜が嫌いなので、だから野菜を食べさせるために、こういう風な弟の好きなものばかり乗っけたら、弟が食べてくれるだろうということです。字が小さくて見えなと思いますが、これのすごいのが気持ちです。「弟にはカブトムシみたいに強くて、太陽みたいにキラキラと元気に輝く大人になって欲しい」と書いてあるのです。中学校1年生の女の子が、小学生に対してこう思うのですから素晴らしいです。実際にはこれです。これだったら実際に作っていただけると思うのです。中学校の女の子がこれを弟さんに作ったら、ここで野菜は嫌いだから食べない、とは言えないと思うのですね。

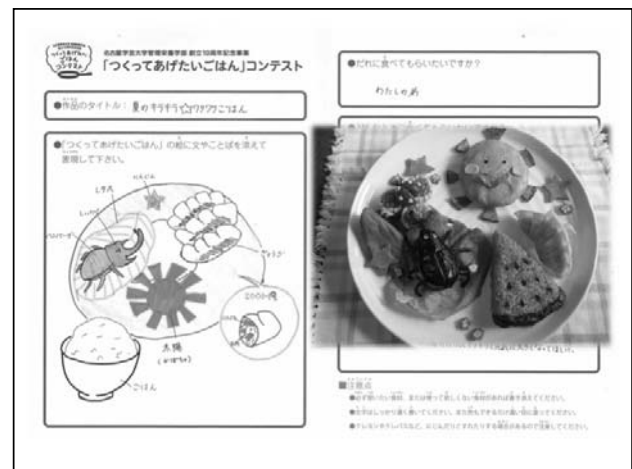


図 11

これが最後の作品です。もっといっぱいあるのですが、最後に選ばせてもらったのは、これ

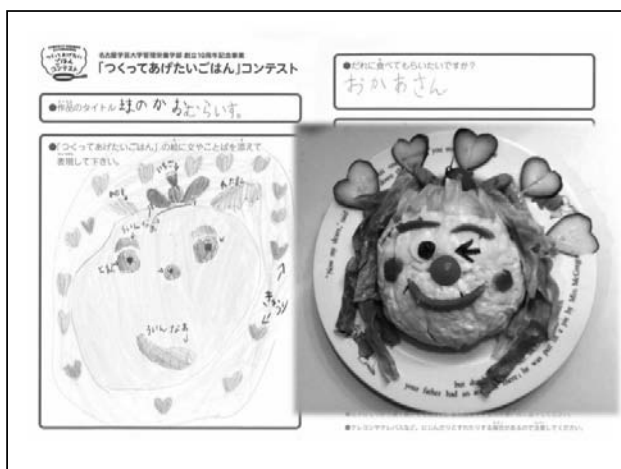


図 12

は小学校1年生のお子さんがですね、お母さんに疲れているときにこれを食べると元気になってくれるだろうというので描いてくれました。ポイントは一番下ですね、これを描いているときどんな気持ちになりましたか、という質問に対して、「仲良く一緒に食べたい」と書いてあるのです。今日の共食もまさしくそれなのです。一緒に食べたい作品はこれです。小学校1年生の子の作品なので、髪の毛がなぜかレタスになっているので、緑色の髪の毛になってしまったのですが、これだったら楽しく食べていただけるかなと思います。

以上、このような作品を頂きました。だいたいそのお子様が描いていただいた絵にはですね、みなさん元気になって欲しいとか、栄養のバランスを

取って、疲れを取って欲しいとか、後は感謝して、とかですね、後はありがとうという気持ちを伝えたい、特別なお祝いを表したい、こういう風な思いが伝わってきます。この思いですけれども、その思いや気持ちを考えて、レシピ作品を作っていただきました。まさしく最初に目的とした、世代を超えた食の共有というものを実現することができました。せっかく作ってくれたレシピですから、それを実際に作ってくれと、今日のテーマでありますような、同じ食卓でそれを食べて頂いたら、作ってくれた人の思いが伝わってですね、きっと楽しい食事の場所になるかなと思いました。

以上です。ありがとうございました。

「つくってあげたいごはんコンテスト」を終えて

食べてもらう人に対する気持ち

身体のことを気づかって
元気になってほしい、健康でいてほしい、栄養バランスを考えてほしい

感謝して
ありがとうという気持ちを伝えたい、食事で恩返しをしたい

お祝いして
おめでとうという気持ちを表したい、特別な日に

- ・世代を超えたプロジェクト（子どもたちの気持ちになって）
- ・食事には意味があり、これを受け止めて食べられたら…
- ・作ってくれた人の顔を見て（思い浮かべて）、一緒に食べられたら、いっそう気持ちは伝わる。

笑顔であたたかく、楽しい食事の場

図 13

※ 一部重複写真・表を割愛させていただきました。

※※文中にあげた子どもの作品は巻末にカラーで掲載しています。

塚原丘美 履歴

名古屋学芸大学管理栄養学部准教授。管理栄養士、博士（医学）。病院勤務の経験から、糖尿病と栄養管理に関する研究、若年者の生活習慣病と食生活に関する研究に携わる。